

株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国
子どもの溺死事故予防のための参加型教育教材開発事業

第3 四半期報告書(2017 年 3 月～2017 年 5 月)



2017 年 7 月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



1. 事業概要

事業名	子どもの溺死予防のための参加型教育教材開発事業
対象国・地域	タイ王国 バンコク都
事業期間	2016 年 9 月 1 日～2017 年 8 月 31 日
報告期間	2017 年 3 月 1 日～2017 年 5 月 31 日
予算	11,697,084 円
受益者	直接裨益者： バンコクの小学校 2 校に在学する生徒 2,220 人、教職員 122 人 ¹ 間接裨益者： 約 7,800 人(タイ南部パンガー県で実施されている溺死予防事故事業の対象生徒・教員等)
事業目的	子どもの溺死事故予防のために、子どもの声を活かした溺死防止教材を開発し、同教材の普及拡大を目指す

2. 活動進捗

2017 年 2 月に実施した事業開始ワークショップ、溺死事故予防や対処に関する子どもたちの知識や技能を測定するテストに続いて、当四半期は、関係者との準備ミーティング、および小学校 2 校の生徒が参加するキャンプを 2 回開催しました。キャンプにおいては、水難事故防止のための知識や水泳技術を測るテストも行われました。当四半期の主な活動は下記のとおりです。

※活動 1.は前四半期で終了

活動 2. 溺死事故予防のための子ども学習会の開催

2.1 学習会に向けた協議

2 月に実施した事前テストでは子どもたちが救助の求め方や救助方法、また浮力(水に浮く)技術において困難を抱えていることがわかりました。この問題を解決するために、当事業の連携団体である子どもの安全推進・傷害予防研究センター(Child Safety and Injury Prevention Research Center/CSIP)²、参加型グループ学習支援等のソーシャル・ビジネスを展開するブラック・ボックス社(BlackBox)、およびゲーム・コンサルタントとともに第 1 回のキャンプのアジェンダを最終化し、また子どもたちが大切なメッセージを確実に理解できるよう、何度もチームミーティングを行いました。また、対象校の校長に事前テストの結果を共有し、4～6 年生の子どもたちに水難に備えた泳法を練習する機会を提供するよう依頼しました。

後述の第 1 回キャンプの後には、事業チームはゲームの開発や次テストについて、ブラック・ボックス社および子どもの安全推進・傷害予防研究センターのスタッフとさらに話し合いを行いました。

¹ Phayathai 小学校在籍者(生徒 1,638 人、教職員 122 人)および Suan Bua 小学校在籍者(582 人、教職員 54 人)

² マヒドン大学ラマティボディ病院医学部小児科学科に置かれた研究センター。同センターは、これまで教材開発をはじめとする、子どもの溺死事故予防活動と研究に取り組んできました。

2.2 溺死事故予防のための子ども学習会の実施

・第1回キャンプ

3月11、12日、Suan Bua 小学校で、水上安全に関する第1回キャンプが開催されました。このキャンプは、教職員および生徒が水上安全について学び、また生徒たちが学習教材をつくるようはたらきかけることを目的としています。

初日はまず、ブラック・ボックス社が溺死事故の原因や環境・行動面のリスクを子どもたちに問いかけることで、子どもたちの溺死事故リスクに対する考えをまとめました。その後、子どもの安全推進・傷害予防研究センターが、(1)事故のリスク要因(環境面および行動面)に関する知識、(2)救助の求め方と救助活動に関する知識、(3)救命ジャケットの使用法に関する知識、(4)心肺蘇生法(CPR)の実施や大人に実施を依頼する方法(救急通報電話番号 1669 の利用を含む)、(5)泳力(3分以上水に浮く・休まずに15メートル以上水中を移動する)に関する知識や技術について、子どもたちが以前に学んだことを復習できるようなプレゼンテーションを行いました。子どもたちは5つの知識、技術をプールで楽しく実践していました。またこの日、事業のTシャツがすべての参加者に配布されました。

翌日(2日目)、ファシリテーターのチームは、生徒と教員を2つのグループに分けました。片方のグループはゲーム・コンサルタントとともに、どのようにボードゲーム³を立案、作成するかについて学び、またもう一方のグループは、当会のスタッフおよびブラック・ボックス社とともに、「Alert Little Tun」⁴やその友達のキャラクターを登場させたストーリーをどのように作成するかについて学びました。その後、子どもたちがもう一方の活動に加わることができるよう、子どもたちのグループを入れ替えました。子どもたちはゲームやストーリーをそれぞれの仲間たちに見せ合い、水難に備えた泳法や救助方法なども含めた状況分析も行いました。これにより、彼らは大切なメッセージをすべて覚えることができたことが期待されます。

・事後テストの実施

5月中旬、第2回キャンプを前に当会と子どもの安全推進・傷害予防研究センターは、第1回キャンプに参加した子どもたちに対し事後テストを実施し、子どもたちが知識と技術を習得したことが確認されました(結果は以下の表を参照)。Suan Bua 小学校は、学校の公式な計画に水難に備えた泳法の講習を組み込み、すべての生徒が泳法テストに合格するという目標を立てていることから、より良い結果を出すことができました。一方、Phayathai 小学校は1,658人と大きな学校であるにもかかわらず、水泳の練習は主に1、2、3年生に対してのみ行われていました。学校長は、学校の会議においてこの件について話し合うことにしました。

³ ボードゲームとは、チェス、オセロ、モノポリーやすごろくのように、盤上で駒を動かして遊ぶゲームを指します

⁴ 2014年度ファミリーマート様によるご支援いただいた事業「アユタヤ県における学校教育を通じた防災事業」で製作された、防災に関する子ども向け絵本。モグラのTunが動物の仲間たちと防災(特に洪水災害への対応)について学んでいくストーリー。アニメーション版も製作されました(YouTube):

洪水前の対策 <https://www.youtube.com/watch?v=2qGwY0g4gU0>

洪水が来た時の対策 <https://www.youtube.com/watch?v=KST0IXQKCdg>

洪水後の対応 <https://www.youtube.com/watch?v=KST0IXQKCdg>

<事前・事後テスト結果>

学校名	テスト	生徒数	知 識 (%)	救助の求め方、 救助方法(%)	3 分間浮く (%)	15 分水中 を動く(%)	救命ジャケッ ト使用法(%)
Phayathai	事前(2 月)	26	80	0	26.92	73.08	11.54
	事後(5 月)	21	76.92	73.08	50	80.77	80.77
Suan Bua	事前(2 月)	25	98.67	4	96	100	100
	事後(5 月)	25	95.87	100	100	96	100

※Phayathai 小学校では、第 2 回キャンプで 5 人の生徒が欠席

・第 2 回キャンプ

第 2 回キャンプは 5 月 27、28 日に Phayathai 小学校にて実施されました。新学年度になり、何人かの生徒(前回キャンプ時は 6 年生だった)が別の学校に進学したため、4 年生から 5 年生、また 5 年生から 6 年生となった生徒がこの事業に参加しました。両方の学校から参加した子どもたちの間には友好関係も築かれ、第 2 回キャンプではお互い助け合う姿も見られました。

初日、子どもたちは、第 1 回目のキャンプで学んだ知識や行動について復習しました。まず、第 1 回キャンプでつくったゲームを試してみました。ゲームは、1)3 種類の溺れる可能性がある状況(池、埠頭、プール)のカード(15 枚、1 セット)、2)10 種類の救命道具のカード(55 枚、1 セット)、3)救助を求めるための「シャウト・カード」(24 枚)、4)医療行為のカード(8 枚x2 セット)、5)ゲームをさらに面白いものにするためのカード(8 枚)から構成されています。このゲームは、8 歳くらいの子ども 2 人から 8 人で行うことが最適であり、およそ 20 分を要します。プレーヤーが、「叫んで救助を求める」「溺れている人を助けるために水に浮くものや長さがあるものを投げる」など、救助を求めたり救助するための大切なメッセージを覚えることを目的としています。最初はゲームをプレーするのが難しかったため、子どもたちがプレー方法についての指示を受ける必要がありましたが、次第にゲームを楽しめるようになり、また遊びたいというリクエストも上がりました。子どもたちからは、多くの貴重な意見が出ました：

「このゲームが好きだし、それほど難しいとは思わない。小さい子どもたちでも理解しプレーすることができと思う。先生たちが側にいれば、さらに易しいと思う」

「カードがうまく配られず、私のところには同じようなカードがたくさん配られたので、プレーできなかった」

「最初は、ルールがわからなかったので混乱した。でもチームのファシリテーターがプレー方法を教えてくれたので、友だちと一緒にプレーすることができた」

翌日(2 日目)、まずは子どもたちの理解を確認するため、子どもの安全推進・傷害予防研究センターによる子どもが溺れるケースの分析から始まりました。子どもたちは、何が起こったのか、何が環境面でのリスクなのか、行動面でのリスクなのか、また溺死事故をどうやって予防するかについて、説明することができるようになりました。その後、ゲーム・ファシリテーターが、新しいゲームを子どもたちに紹介しました。続いて、「Alert Little Tun」のストーリーをつくるセッションも行いました。これらを経て、子どもたちは溺死事故予防のための知識や、水難に備えた泳法を、自分たちがつくったストーリーに反映させました。

Phayathai 小学校の子どもたちは Suan Bua 小学校の子どもたちよりもカード・ゲームを楽しんでいた

一方、Suan Bua 小学校の子どもたちは Phayathai 小学校の子どもたちよりも、彼らがつくったストーリーを他の子どもたちに伝えることを楽しんでいる様子が見受けられました。子どもたちからは、多くの貴重な意見が出ました：

「低学年の生徒にとっては、カードにもっとキャラクターが出てくればいいのではないか」

「同級生たちに、もっと自分のストーリーを知ってもらいたい。このストーリーを自分の学校の下級生に読み聞かせたい。彼らも好きだと思う」

「自分は、友だちのつくったストーリーが気に入った。ストーリーの伝え方もよかった。どうやって溺死事故を予防するかについて理解した」

活動 3. 子どもの溺死事故予防への啓発教材の製作と普及

3.2 子どもの溺死事故予防のための啓発教材の開発／3.3 上記教材の普及活動の開始

・啓発教材の試験的使用

上記第 2 回キャンプでつくられたゲームが、1) 当会が農村地域の子どもたちの溺死事故予防に取り組んでいるパンガー県、2) ゲーム・コンサルタントが臨時教師として働いているノンタブリ県において、6 月に試験的に使用される予定です。教材として配布するための最終形をつくるにあたり、この試験的に使用した結果を共有するミーティングが予定されています。

・子ども向け教育アニメ番組「Alert Little Tun」の制作

当会は、タイで当会が実施するすべての事業の啓発のために、タイの公共テレビ放送局 ThaiPBS⁵との提携に向けて働きかけてきました。その中で、当会が作成した映像を無料で放映する可能性についても話し合われており、現在契約に向けて準備をしています。

また、パンガー県の子どもの溺死事故予防事業と協力し、Thai PBS ネットワークで放映するアニメーションの作成にも取り組みました。アニメーション作成時には、医療資格保持者であり海上レスキュー資格保持者であるフィールドコーディネーターの協力を得ました。6 月以降、事業チームは溺死事故防止のアニメーションの 8 つのエピソードづくりに着手し、8 月、9 月に放送される予定です。

3. 課題・変更点

・活動において、先生たちの関与があまり高くない様子が見られることがありました。よって、事業チームは最終四半期に、2 つの学校に対し指導教材や指導手法を提供するため、学びと教訓をまとめることにしました

・Phayathai 小学校の 4 年生から 6 年生には、水泳クラスがありません。事業チームは、校長と話し合いを持ち、この件に関して次四半期でフォローアップを行うことになりました。

・事業チームは対象校に対し、なぜこの 2 校でこの活動が実施されているか(この学校がモデルケースとなり、他の学校にも溺死事故予防のための啓発教材が普及することが期待されている)について説明を行う必要がありました。

⁵ ThaiPBS は 2008 年 1 月にタイ政府が設立した、同国初の公共放送局です。

4. 今後の活動予定

活動内容	2017 年											
	6 月				7 月				8 月			
	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週
活動 2. 溺死事故予防のための子ども学習会の実施												
- ゲームの試験的实施		X	X	X								
- 水難に備えた泳法クラスのフォローアップ			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
- 教材としてのカードゲームの配布									X	X	X	
- 先生たちとの「教訓と学び」										X	X	
活動 3. 子どもの溺死事故予防への啓発教材の製作と普及												
- キャンプ映像を用いたビデオ作製	X	X	X	X	X	X	X	X				
- ゲームを使用可能なものに開発する					X	X	X	X				
アニメーション制作												
- アニメーション制作にあたり ToR を作成し公募を行う	X	X										
- 候補者の選定			X									
- アニメーションの制作			X	X	X	X	X					
- アニメーションのレビューと編集					X	X						
- ThaiPBS への協力文書の準備				X								
- ThaiPBS に向けての第一ドラフトを作成する					X	X						
- ThaiPBS に 8 つのエピソードを提出する							X	X				
- 放映									X	X	X	X
- 手話と字幕付きのタイ語・英語版のビデオを提出する								X				

5. 活動写真

第1回キャンプ(Suan Bua 小学校、2017年3月11、12日)



溺死事故のリスクを分析し、発表を行う子どもたち



5つの知識、スキルの実践練習



溺れている人の救助方法を学ぶ子どもたち



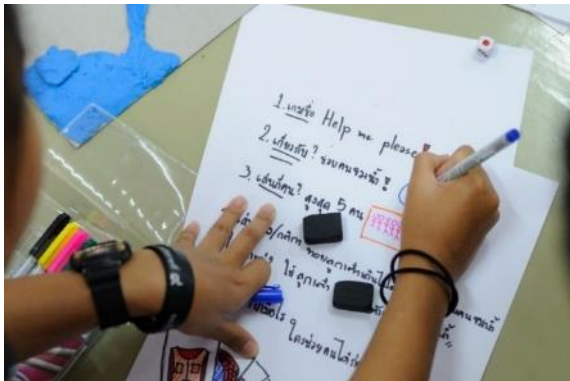
泳法を学ぶ子どもたち



水に浮く方法を学ぶ子どもたち



子どもたちは、提供された材料を用いてゲームを作りました。その後、仲間たちの前で発表を行い、改良するためのフィードバックを受けました



カードゲームの遊び方を書いていく子ども

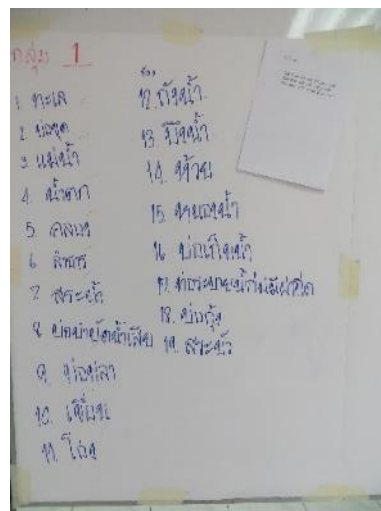


ストーリーをつくっていく子どもたち

第2回キャンプ(Phayathai 小学校、2017 年 5 月 27、28 日)



溺れる可能性がある状況进行分析しました



環境面でのリスクについて、キャンプの最初に復習を行いました



つくったストーリーを読み上げる子どもたち





ゲームを試験的にプレーすることもち

6. 活動でつくられたストーリー

キャンプに参加した子どもたちがつくった、「Alert Little Tun」とその友だちが登場する、溺死事故予防の啓発のためのストーリーの一部です。

①「海に行こう」



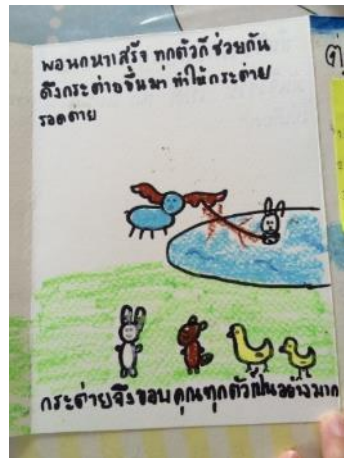
ある日の午後、ウサギとカメは、一緒に海に行こうと Little Tun を誘いました。しかし Little Tun はあまり体調がよくなかったので行きたくありませんでした。Tun はウサギとカメに、「海に行くのなら、水に入る前に救命ジャケットを着るのを忘れないでね」と言いました。でもウサギとカメは Tun が言ったことを気にしませんでした。海に着いた途端、ウサギは何も気にせ

ず、水に飛び込んで泳ぎ始めたのです。そして突然、ウサギは溺れ始めました。

カメはそれを見て、「助けて！助けて！助けて！」「誰かが溺れているよ！」と助けを求めて叫びました。そしてカメはウサギに対し「怖がらないで」「誰かが助けに来るから」と叫びました。

カメは空のボトルを見つけて、ウサギに向かって投げました。そのおかげで、ウサギは誰かが助けに来るまでなんとか浮いていることができました。そしてとうとう、誰かがウサギを助けにやってきてくれました。ウサギとカメは、Tun が彼らに言ったことを思い出しました。「僕たちは、Tun が言ったように救命ジャケットを着るべきだったね」。

② 「Little Tun の森の冒険」

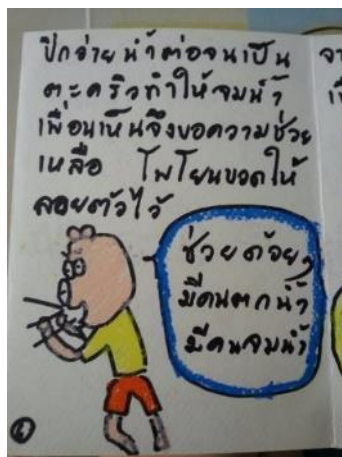


Little Tun は森に行くのが好きです。ある日彼は、友だちのアヒルとヒヨコと鹿を森に誘いました。荷造りをして、彼らは一緒に森に向かいました。途中、Tun はウサギが沼で溺れているのを見つけました。Tun は「助けて！助けて！助けて！ウサギが溺れているよ！」と叫びました。

アヒルは、水に浮きそうな空の大きな缶を見つけました。また、ヒヨコ

は長い木の枝を見つけて、ウサギに捕まるようにと差し出しました。みんなが協力して、ウサギを引っ張り上げたのです。ウサギは助かりました！！ウサギはみんなにお礼を言いました。

③ 「3 匹の豚との水遊び」



昔、それぞれ P、I、G という名前の 3 匹のブタがいました。彼らは運河で泳ぐのが大好きでした。ある日、彼らは友だちの Mon、Po、Pick を、一緒に泳ぎに行こうと誘いました。でも Mon、Po、Pick の 3 匹は行きたくありませんでした。なぜなら、大人と一緒に泳ぐのはまったく安全ではないと思ったからです。でも 3 匹のブタに「自分たちは大丈夫だし、君た

ちのことも気を付けるよ」と言われ、大人たちに言わずに行くことに決めました。

運河では、みんなで一緒に楽しく泳ぎました。やがてみんな疲れてきたので、川岸に上がろうとしました。Pick だけがまだひとりで泳いでいたのですが、そのうちに足がつってしまい溺れ始めました。友だちたちはそれを見て、助けを求めました。

P は「助けて！助けて！Pick が溺れている！」と叫び、Po は Pick が掴んで浮くことができるよう空のボトルを投げました。そして Po が Pick にロープを投げて、みんなで協力して彼を川岸に引き上げました。Pick は助かったのです。